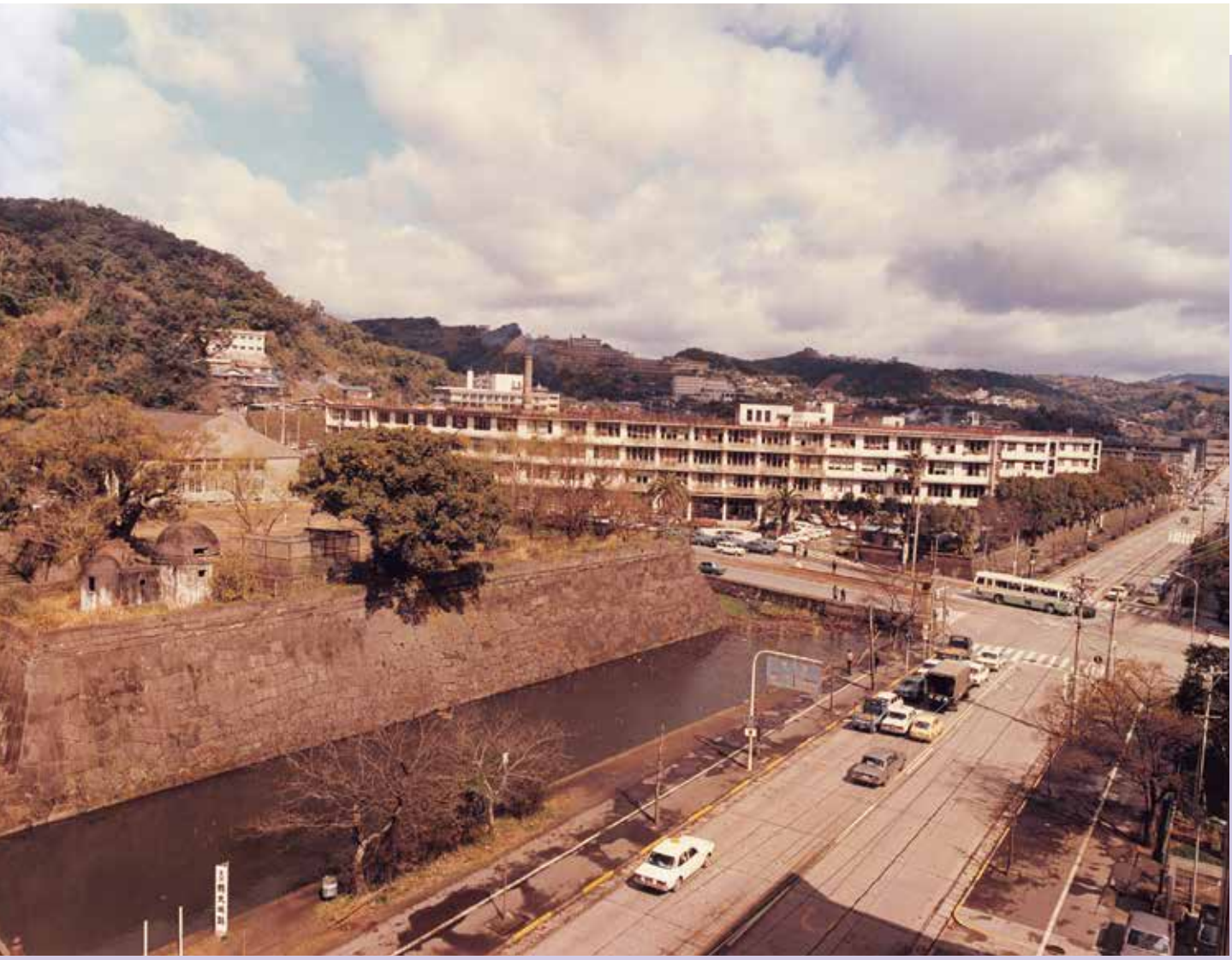
2022 JANUARY
No.33

鹿児島大学 同窓会連合会報



「城山時代の大学病院全景。前棟が全科外来診療棟と各科医局。後棟が病棟であった。」
鶴陵会會報35号表紙から出典

特別寄稿

鹿児島大学工学部創立75周年記念講演会

南西諸島での新種ゴキブリの発見

坂巻　祥孝（農学部准教授）

鹿児島大学同窓会連合会会則

第１章　総則

（名称）

第１条　本会は、鹿児島大学同窓会連合会と称する。

（目的）

第２条　本会は、鹿児島大学の各学部同窓会（以下「各学部同窓会」という。）の連合組織として、鹿児島大学の基本理念の達成に協力し、その発展に寄与するとともに、会員相互の交流及び親睦を行うことを目的とする。

（事業）

第３条　本会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

（１）鹿児島大学との連携及び協力

（２）各学部同窓会間の交流及び連携の推進

（３）その他本会の目的に沿った事業活動

（支部）

第４条　本会に支部を置くことができる。

第２章　会員

（会員）

第５条　本会は、次に掲げる各学部同窓会及び特別会員を持って組織する。

各学部同窓会

鹿児島大学法文学部同窓会
鹿児島大学教育学部同窓会
鹿児島大学理学部同窓会南明会
鹿児島大学医学部同窓会
鹿児島大学歯学部同窓会
鹿児島大学工学部同窓会
鹿児島大学農学部あらた同窓会
鹿児島大学水産学部同窓会魚水会
鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

特別会員

鹿児島七高同窓会

第３章　役員等

（役員）

第６条　本会に次の役員を置く

（１）会長　１名

（２）副会長　各学部同窓会からそれぞれ１名

（３）代表幹事　１名

（４）幹事　各学部同窓会及び鹿児島大学からそれぞれ１名

（５）評議員　各学部同窓会からそれぞれ４名

（６）監事　若干名

（７）その他会長が認めた者

（役員の選任）

第７条　会長、代表幹事及び監事は、総会において選任する。

（役員の任務）

第８条　会長は本会を代表して会務を総理する。

２　副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

３　代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。

４　幹事は本会と学部別同窓会との連絡調整を図るとともに、役員会及び幹事会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。

５　評議員は総会の構成員として、重要事項を審議する。

６　監事は業務及び会計の執行状況の監査を行う。

（役員の任期）

第９条　役員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員が生じた場合の補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。

（名誉会長及び顧問）

第10条　本会に、名誉会長及び顧問を置くことができる。

２　名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。

３　名誉会長及び顧問は、総会に出席し、意見を述べることができる。

第４章　会議

（会議）

第11条　本会の会議は、総会、役員会及び幹事会とする。

（総会）

第12条　総会は、第６条各号に掲げる役員をもって組織する。

２　総会は、次に掲げる事項を審議、決定する。

（１）役員の選任に関する事項

（２）事業計画及び事業報告に関する事項

（３）予算及び決算に関する事項

（４）会則の改廃に関する事項

（５）その他会長が必要と認めた事項

３　総会は、毎年度１回、会長が招集し、その議長となる。

４　総会は、第１項に規定する役員の過半数の出席により成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（役員会）

第13条　役員会は、会長、副会長、代表幹事、幹事及び監事をもって組織する。

２　役員会は、次に掲げる事項を審議する。

（１）総会に付議すべき事項

（２）本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

（幹事会）

第14条　幹事会は、会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

２　幹事会は、総会又は役員会において決定した業務の具体的執行計画等を審議する。

第５章　会計

（経費）

第15条　本会の経費は、学部別同窓会の分担金、寄附金等をもって充てる。

（会計年度）

第16条　本会の会計年度は、４月１日から翌年の３月31日までとする。

（監査）

第17条　会長は、会計年度ごとに決算書を作成し、監事の監査を受けなければならない。

第６章　事務局等

第18条　本会に、その事務を処理するため、事務局を置く。

２　事務局は、鹿児島大学総務部総務課内に置く。

（雑則）

第19条　この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この会則は、平成17年４月７日から施行する。

附　則

この会則は、平成19年４月６日から施行する。

附　則

この会則は、平成30年４月７日から施行する。

附　則

この会則は、平成31年４月６日から施行する。

第33号会報（令和４年１月発行）に寄せて

同窓会連合会　会長　冨永　茂人

鹿児島大学９学部９研究科を卒業・修了された11万人以上のOB、OGの皆様、昨年から続いている新型コロナウイルス感染症パンデミックによる不自由な環境の中、それぞれの国、地域および職場において苦難を克服しながらご活躍されてこられたことと存じます。

現在（2021年10月下旬）、少なくとも日本ではいわゆる「第５波」収束の明るい兆しが見え、通常の生活が戻って来つつあります。しかし、再拡大を引き起こさないための「マスク着用」、「手洗いの励行」、「三密を避ける」という生活習慣は引き続き求められており、当面、新型コロナ禍以前の完全に自由な生活様式には戻りそうもありません。皆様が細心の注意を払いながら生活や経済活動を続けていく中でこの状況が完全に終息し、平穏な生活が戻ってくることを心より望んでおります。

この新型コロナ禍により、私たちの母校鹿児島大学においても昨年、今年と２年連続して卒業・修了式と入学式は規模を縮小して実施され、学生の皆様にはオンラインと対面授業を組み合わせた教育が行われ、キャンパスも静かで寂しい時期が長く続いてきました。また、同窓会活動も各学部、連合会とも大幅に制限され、４月の入学式の週の土曜日午後に開催してきた「同窓会連合会総会」および各学部の卒業生の融和と連帯を目的とした懇親会「卒業生の夕べ」も２年連続して中止にせざるを得ませんでした。連合会の関東支部総会や福岡支部「北辰斜めの会」も延期または中止になりました。特に、「総会」や「卒業生の夕べ」は年々盛会になり鹿児島大学の全学部・研究科の卒業生・修了生間の絆および鹿児島大学執行部との連携を深める役割が大きくなってきていただけに残念でなりません。

鹿児島大学同窓会連合会は各学部の同窓会の連合体であり、各学部同窓会から委員が出席して開催する幹事会、役員会で活動方針を決め鹿児島大学の全卒業生・修了生からなる同窓生の横の連携を強化するとともに鹿児島大学と力を合わせて「学生・大学院生の教育・研究活動のサポート」などの活動を行って行くことを大きな目的としています。コロナ禍以前の活動からポストコロナにシフトした「新しい鹿児島大学同窓会連合会」活動に取り組む方法を模索していかなければなりません。そのために、全会員ご協力をお願いいたしますとともに、アイデアなどもお寄せいただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

最後に、私たちを取り巻く困難な状況が改善され、鹿児島大学同窓会連合会として卒業生および在学生の絆を取り戻す日が早急に戻ってくることを祈っております。

目　　次

第33号会報（令和４年1月発行）に寄せて	1
学長挨拶	2
鹿児島大学の近況	3
各学部同窓会活動報告	9
特別寄稿（工学部、農学部）	18

学　長　挨　拶

鹿児島大学長　佐野　　輝

鹿児島大学同窓会連合会の皆様方、新年あけましておめでとうございます。コロナ禍の中、お元気でお過ごしでしょうか。日頃より本学の教育・研究並びに大学運営等に関しまして、ご理解・ご協力・さらにはご援助を賜り、厚くお礼申しあげます。

今回は本学におけるコロナワクチンの大学拠点接種についてお話しさせていただきます。鹿児島大学におきましては、令和３年６月24日からコロナワクチンの大学拠点接種を開始し、本学の学生・教職員や教職員家族、さらには後に対象を県内の高等教育機関の学生・教職員に対してまで拡大し、９月末までに各人に対して２回ずつの接種を完了しました。接種開始の時期は、鹿児島市や鹿児島県との協議も円滑に済ませたこともあって九州管内の国立大学では最も早く開始することができました。接種回数は総数で約２万４千回となり、鹿児島市民の２％は本学の大学拠点接種でまかなったことになります。幸い大きな事故も出さずに済ませたことは、桜ヶ丘キャンパスの医歯系教職員や事務局職員・保健管理センター教職員の協力があってこその大事業でした。また、接種会場となった郡元キャンパスのお隣に存する鹿児島市立病院にも急変など救急対応の協力を前もってお願いしたこともあり、軽度のアナフィラキシーの例をはじめ何度か救急搬送をさせていただき大変お世話になりました。この大学拠点接種の前には、桜ヶ丘キャンパスにおいて医療従事者の接種がすでに始まっており、さらには帰省先の実家のある郷里で地域の枠内でワクチン接種を受けた者などの数を合算すると、本学学生全体で少なくとも80％、教職員では91％のコロナワクチン接種率が確保できたという計算になりました。全国的には、若年層への接種がなかなか進んでいない現状から考えると、決して強制などは謳わずに、このように高い接種率を確保できたことは今後の教育の実施形態等に好影響が出ると考えられ、喜ばしいことかと感じています。第５波では多くの学内感染者を出してしまった本学においても、今後の感染率の低下に至るよう祈るばかりです。

鹿児島大学同窓会連合会総会は、昨年度に続いて今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のために書面会議とさせていただき、皆様とお会いする機会がないことは、とても残念でございました。

「コロナに負けず、自らに負けず、鹿児島大学人としての誇りを胸に、自らを律し、 この難局を乗り越えましょう。鹿児島大学の底力を見せましょう。暗いトンネルの先には必ずや光が待っています。」

と大学構成員に呼びかけまして、明るい光の方向へと導びけるよう今年も努めて参ります。

最後に、同窓会連合会の皆様方のますますのご健勝とご活躍をお祈り申しあげ、私の挨拶とさせていただきます。

鹿児島大学の近況

－進取の気風あふれる総合大学－

（2021年５月から2021年10月までのトピックス）

○生協中央食堂の混雑を見える化　（５月21日）

鹿児島大学では、新型コロナウイルス感染症対策と学生サービスの向上などを目的に、鹿児島大学生協のご協力のもと、郡元キャンパス中央食堂に「食堂の混雑情報提供システム」を導入しました。

本システムは鹿児島大学産学・地域共創センターに設置された「IoT 実証ラボ」の一環として、理工学研究科熊澤典良准教授の研究室が開発したもの。食堂内に設置した４台のカメラから得られる画像情報を AI・IoT 技術により数値化、出食カウンター、会計レジ、テーブル・座席の混雑状況を利用者のプライバシーを保護して可視化表示するシステム。スタッフは事務所内に設置されたモニターを見て、人の配置など先回りした対策を取ることができ、また、二酸化炭素濃度が基準を超えるとアラートが鳴り、換気を促す仕様となっています。ここで得られたデータは「食堂の混雑情報」として、生協のホームページに掲載、本日の混雑状況と予想がリアルタイムで更新され、学生等利用者は混雑を避けた利用ができます。今回の開発に携わった同研究室で理工学研究科修士２年の吉野陽さんは、「コロナ禍のいま、多くの人に見てもらい役立つよう改良を重ねたい」と語りました。

今後、九州内の他大学の生協や、外部の飲食店などへの活用も期待されます。

○日本初記録！フサカサゴの仲間を発見　（６月９日）

総合研究博物館と大分マリーンパレス水族館「うみたまご」の研究チームが日本初記録のフサカサゴ科イソカサゴ属魚類を発見し、日本魚類学会が発行する英文誌「Ichthyological Research（イクチオロジカル・リサーチ）」のオンライン版に2021年６月７日付けで掲載されました。

日本国内で琉球列島などに広く分布するマメサンゴカサゴ *Scorpaenodes hirsutus*（スコルパエノデス ヒルスタス）とされているものに２種が含まれていることを明らかにしました。もう１種はこれまで国内からは記録がなかった *Scorpaenodes kelloggi*（スコルパエノデス ケロッグアイ）と同定されました。

これまで上記２種の形態学的相違はあいまいでしたが、本研究でインド・太平洋広域（アフリカ東岸・紅海～ハワイ・仏領ポリネシアにかけて）から得られた125個体を詳細に比較検討し、頭部の棘の状態や計数・計測形質および色彩の19形質が両種を識別する新たな形質として有効であることを明らかにしました。

２種の形態学的相違を明らかにした上で、標準和名の検討を行い、マメサンゴカサゴという和名が提唱された際に用いられた標本が *Scorpaenodes hirsutus* であると特定されました。*Scorpaenodes kelloggi* には適用すべき和名がなく、本研究において、新標準和名スズメイソカサゴを提唱しました。スズメイソカサゴは最大体長４cm の小型種で、国内では伊豆諸島から鹿児島県、琉球列島に分布することが分かりました。

本研究は南日本の岩礁やサンゴ礁域における生態系を理解するための基礎的知見となります。鹿児島大学総合研究博物館では国内外の魚類多様性を把握するために、魚類の分類や系統、生物地理の研究を行っています。過去10年で111新種、108種の魚類の標準和名を命名しており、世界の魚類学における拠点としての役割を担っています。

○令和３年度種村完司私費外国人留学生奨学金授与式を開催（８月６日）

７月29日、令和３年度種村完司私費外国人留学生奨学金授与式が開催され、佐野 輝学長から５名の私費外国人留学生に目録が授与されました。同奨学金は、種村完司名誉教授（元鹿児島大学教育・学生担当理事）の理事在任時代、私費外国人留学生が経済的に厳しい状況であることを鑑み、少しでも金銭面で支援し、勉学に専念できるようにと種村名誉教授の寄附により設立されたものです。

授与式では、佐野学長から奨学金設立の経緯、留学生への祝福および期待の挨拶があり、続いて種村名誉教授から、「留学生が経済的事情からアルバイトに時間を費やしている現状を改善したく、少しでも学業に専念できるように奨学金制度を設立した。今後もぜひ勉学に励んでほしい。」と激励の挨拶がありました。

留学生を代表して、法文学部の楊 皓（ヨウ コウ）さんから、「今年も新型コロナウイルスの影響により、世界中が未曾有の経済打撃をうけている。奨学金を給付していただき、経済的不安が軽減された。もっと多

くの時間を学習と研究に専念することができることだけではなく、精神的にも大学からの温かい支えを感じている。今後も感謝の気持ちを忘れずに、鹿児島大学での留学経験を社会に還元できるように頑張りたい。」と感謝と抱負が述べられました。

○人々は東京五輪を予想以上に楽しんでいた？（９月13日）

法文学部人文学科心理学コースの榊原良太准教授と大薗博記准教授は、東京五輪開幕前の７月１日、７月15日、開催中の８月１日に継続的にアンケートを実施し、東京五輪に対する人々の感情がどのように変化していくか、それが開幕前の東京五輪に対する賛否によってどのように異なるかを検証しました。

全国の2483名分のデータを分析した結果、人々は開幕前に予想していた以上に東京五輪を楽しんでいたこと、またその「心変わり」の傾向は、開幕前に東京五輪に反対していた人ほど大きいことなどが示されました。

今回の調査は、人は自身の将来の感情を必ずしも正確には予測できないという「感情予測」という心理的現象に着目したものです。自国開催の五輪でありながら、国内の賛否が大きく分かれているという特殊な状況下でのデータは、「感情予測」研究に大きな示唆をもたらすだけでなく、国内での大規模イベントをめぐる社会全体の感情の動きの理解にもつながると考えられます。

調査結果は、速報性を重視し、プレプリント論文として PsyArxiv にて公開されています。

○認知機能低下・身体の老化は口の機能低下から（９月24日）

医歯学総合研究科顎顔面疾患制御学分野（鹿児島大学病院歯科部門口腔外科）の杉浦 剛教授の研究チームは、垂水市との協働プロジェクト「たるみず元気プロジェクト」で得られた832人のデータから、口腔機能の低下が身体機能の低下及び軽度認知障害につながることを明らかにし、2021年4月12日に国際学術誌『Journal of Clinical Medicine』に掲載されました。

この結果は、口腔機能の低下を歯科治療で予防することにより、認知機能低下や身体機能低下（フレイル）を予防することができる可能性を示しています。

【主な調査結果】

口腔機能低下は、心身の機能低下（フレイル）、全身の筋力低下（サルコペニア）、軽度認知障害のいずれとも関連している。

口腔機能低下の中でも咬合力（かみ合わせの力）の低下、と舌圧（舌の力）の低下は、フレイル、サルコペニア、軽度認知障害すべてに関連している。

嚥下機能（飲み込みの力）の低下は、フレイルとなる危険性を2.56倍増加させる。

咬合力低下は、軽度認知障害となる危険性を1.48倍増加させる。

低舌圧は、軽度認知障害となる危険性を1.77倍増加させる。

○～隠れ続けて190年～ ゴマサバから新種の“珍”寄生虫を発見（９月24日）

大学院理工学研究科の上野大輔准教授らの研究チームは、鹿児島県南さつま市笠沙町で漁獲されたゴマサバから、新種の寄生虫を発見・報告しました。この成果は、長澤和也名誉教授（広島大学）との共同研究によるものです。上野准教授が標本の採集と観察を行い、水産魚類の寄生虫に詳しい長澤名誉教授との議論を経て、新種として記載・報告を行いました。

本種は微小な甲殻類の１種（メスの体長約５㎜、オスは未発見）で、ゴマサバの頭部を構成する骨の中を通る細い管、側線の内部を棲み場所とする珍しい寄生虫です。笠沙片浦漁港へ水揚げされたゴマサバを調査したところ、約50匹に１匹という大変低い確率で見いだされました。

ゴマサバは言うまでも無く重要な水産資源であり、各国で漁獲・利用されています。そのため、寄生虫についても古くから研究がなされ、多くの寄生虫の存在がすでに明らかとなっていました。そうした中で、今回全く新しい寄生虫が発見されたことは大変珍しい事例です。ゴマサバが種として記載されたのは1831年ですが、それに遅れること190年を経ての発見となりました。

この新種の寄生虫は、鹿児島県の海洋生物研究の進展に多大に貢献している伊東正英氏（笠沙町漁業協同組合）に因み *Colobomatus itoui*（コロボマータス・イトウアイ）と命名されました。また、極めて隠蔽的な場所に隠れ棲むこと、多くの寄生虫学者の目に触れることなく現在に至った隠れ上手な性質にちなみ、標準和名にはカクレンボウが提唱されました。大変珍しい寄生虫であり、鹿児島県の海の豊かさを象徴す

る一例と位置付けることができます。

“サバ“の寄生虫と言えば線虫類のアニサキスが有名ですが、甲殻類であるカクレンボウとは全く異なる系統に属します。カクレンボウは人には無害で、食べても腹痛の原因にはなり得ないため、食品衛生上の心配に繋がることは全くありません。新たな寄生虫の発見というと、魚の健康状態や環境悪化を懸念する声も上がるかもしれませんが、これは寧ろ海の環境、魚の健康状態共に良い証とも考えられます。人が食べておいしい魚は、寄生虫にも美味かもしれません。サバからは、他にもサバメダマジラミ、サバウオジラミと言った甲殻類の寄生虫も見つかっていますが、いずれも人には無害です。

本成果は、9月16日付の英国の国際誌「Systematic Parasitology（システマティック・パラサイトロジー）」（オンライン版）に掲載されました。

○アルマ望遠鏡が双子の星の軌道運動を明らかに（10月12日）

大学院理工学研究科博士前期課程学生 市川貴教氏（研究当時）、城戸未宇氏、高桑繁久教授らの研究チームは、若い双子の星（連星）おうし座 XZ 星系を３年間にわたって観測したアルマ望遠鏡のアーカイブデータを解析することにより、連星が互いの周りを回る軌道運動を検出することに成功しました。アルマ望遠鏡の豊富なアーカイブデータを有効活用して若い連星の運動を動画として示した、初めての例であるといえます。この研究成果は、Takanori Ichikawa et al. “Misaligned Circumstellar Disks and Orbital Motion of the Young Binary XZ Tau” として、米国の天文学専門誌「アストロフィジカル・ジャーナル」に９月23日付けで掲載されました。

本研究成果は、複数年にわたるアルマ望遠鏡観測データを解析することで天体の様々な時間変化を調べられることを示しており、「アルマ望遠鏡によるアニメーション」を用いた新たな科学の開拓が期待できます。

○「大学の地域貢献度調査」で総合７位にランクイン（10月21日）

日本経済新聞社が国公私立全国761大学を対象に調査を行った「大学の地域貢献度調査2021」が日経グローカル（10月４日発行号）及び日本経済新聞（10月20日付）に掲載され、鹿児島大学は前回の総合10位から総合７位に順位を上げ、ランクアップしました。

この調査は2006年度から実施され、５つの調査観点により評価・順位付けされるもので、調査の観点は、地域貢献推進のための「組織・制度」、地域イベント、学生の地元就職等の「学生・住民」、共同研究や大学発ベンチャー数などの「企業･行政」、女性教職員のワークライフバランスや学内の多様性推進などの「働く場としての大学」、新設の「SDGs・コロナ対応」の計39項目の設問で構成された調査となっています。

鹿児島大学は、「組織･制度」が37位、「学生･住民」が11位、「企業･行政」が18位、「働く場としての大学」が６位、「SDGs・コロナ対応」が５位、総合順位が７位と高い評価をいただきました。これからも地域とともに社会の発展に貢献する大学として、地域貢献活動を推進してまいります。

○教員の受賞等

①地震火山地域防災センターの浅野敏之特任教授が「令和３年度日本自然災害学会学術賞」を受賞

【論文名】大規模火山噴火災害時における港湾機能維持に必要な降下軽石群の揚収作業量の分析

【著者】浅野敏之・高橋忍・甲斐信治

【発表誌】「自然災害科学」第39巻特別号 , pp.45－56, 2020. （９月30日）

②焼酎・発酵学教育研究センター教員が（財）日本醸造協会技術賞・日本醸造学会奨励賞を受賞

焼酎製造学部門教員の髙峯和則教授、吉﨑由美子准教授、奥津果優特任助教の研究グループが「芋焼酎の品質に関与する要因の研究」で「技術賞」を受賞。吉﨑准教授は「食品への利用拡大を目指した紅麹および紅麹菌の機能解析」で「奨励賞」も受賞 （10月5日）

③理工学研究科理学専攻の内海俊樹教授らの論文が、Most Valuable Paper of the year 2020 in Microbes and Environments に選ばれ、M&E 論文賞を２年連続受賞

Microbes and Environments（通称 M&E）は、日本微生物生態学会、日本土壌微生物学会、台湾微生物生態学会、植物微生物研究会、極限環境微生物学会が共同編集している国際誌で、2020年に同誌に掲載された総説などを除く60報の論文の中から、内海教授らの論文に論文賞が授与された。 （10月27日）

〈以上、鹿児島大学ホームページから転載、引用〉

鹿児島大学の年次決算について、従前から、大学ホームページ上や官報公告で財務諸表を公表しておりましたが、昨今、学生・保護者・卒業生・地域住民・産業界等の各ステークホルダーに対して、より積極的な情報開示を求められていることを踏まえ、令和元年度決算分より、年次決算の概要を情報開示しております。

令和２年度鹿児島大学決算について

国立大学法人は、国から負託された業務の実施に関して財務情報に基づく財政状態や運営状況に関する説明責任を果たすため、財務諸表を作成し公表することとされています。また、国立大学法人はステークホルダーに対する積極的な情報開示を求められています。

財務諸表は、企業会計原則に基づきながら国立大学法人の主たる業務が教育研究であること、授業料等の学生納付金や附属病院収入等の業務特性があること等に配慮し固有の会計処理を定めた「国立大学法人会計基準」等に従い作成しております。

本学の令和２年度末における財政状態は、貸借対照表にありますように資産が１，４２２億円、負債が５８４億円、純資産が８３８億円となっております。また、本学の令和２年度における運営状況は、損益計算書にありますように経常収益が５３２億円、経常費用が５０４億円となり、臨時利益及び臨時損失を含めると２４億円の当期総利益となります。（当期総利益は翌年度以降に多額の借入金が伴う病院経営等に使用していきます。）

本学を取り巻く財務状況は、法人化以降の運営費交付金の削減など大変厳しく、効果的かつ合理的な大学運営が強く求められております。

このような状況を踏まえ、本学は業務の効率化等による経費節減や自己収入等の増加を図るなど、より一層の財政基盤の強化を進めていくとともに、教育・研究・診療・社会貢献活動等のさらなる充実・向上に努めて参ります。

今後とも皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国立大学法人鹿児島大学

令和2年度　国立大学法人鹿児島大学　年次決算（概要）

貸借対照表

【期末時点の財政状態】

資産	負債
142,297 （＋3,125）	58,408 （＋544）
	純資産 83,889 （＋2,582）
	当期未処分利益 （内数） 2,433

損益計算書

【一会計期間の運営状況】

経常費用	経常収益
50,461 （▲231）	53,241 （＋1,291）
臨時損失 357 （▲858）	臨時利益 10 （＋3）
当期総利益 2,433 （＋2,356）	繰越積立金取崩等 0（▲27）

決算報告書

【国の会計制度に準拠】

収入予算 52,875	収入決算 56,449
支出予算 52,875	支出決算 52,953

収入－支出
3,496

（内訳）

外部資金の収支差	357
翌年度への繰越等	306
目的積立金	2,433
余剰金	400

利益の処分に関する書類

【未処理利益の処分内容】

利益処分額	2,433
（内訳） 目的積立金	2,433
積立金	-

※　単位は百万円です（カッコ内は前年度増減）。
※　単位未満の端数処理の関係上、合計額等が合わない場合があります。

【主なトピックス】

（資産）
- 桜ヶ丘他ライフライン再生給水設備等による構築物の増（前年度比+449百万円）
- 寄附金の増、目的積立金の繰越増、附属病院収益の増などに伴う現金及び預金の増（+2,575百万円）

（負債）
- 授業料免除実施経費や災害支援関連経費等繰越による運営費交付金債務の増（+168百万円）
- 借入金22,069百万円（+116百万円）

（費用及び収益）
- 新型コロナウイルス感染症の影響による旅費等減による研究経費の減（▲350百万円）
- 診療経費の増（+491百万円）、附属病院収益の増（+1,106百万円）
- 人件費の減（▲438百万円）

（臨時損失）
- 令和元年度に比べ固定資産除却損（医科病棟取壊し工事）等の減（▲858百万円）

（損益等）
- 当期総利益　2,433百万円（+2,356百万円）
- 目的積立金　2,433百万円（翌年度以降、教育、研究、診療の質の向上等に充てる予定）

財務情報の詳細についてはホームページまで→　https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/zaimu.html
担当係：財務部財務課決算係　　mail: kessan@kuas.kagoshima-u.ac.jp

【鹿大「進取の精神」支援基金】

鹿大「進取の精神」支援基金は、地域活性化の中核的拠点の構築、世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、人材育成及びイノベーションの機能の強化、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けて整備・充実を図ることを目的としております。

本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

基金の詳細についてはホームページまで→　https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/
担当室：総務部総務課広報・渉外室　　mail: s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

鹿大「進取の精神」支援基金へのご寄附のお願い

鹿大「進取の精神」支援基金は、地域活性化の中核的拠点の構築、世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、人材育成及びイノベーション機能の強化、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けて整備・充実を図ることを目的としております。詳細につきましては、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、Web サイトをご覧ください。

本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

鹿大「進取の精神」支援基金 Web サイト　https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/

リサイクル募金のご案内

鹿児島大学リサイクル募金とは、皆様から読み終えた本・ＤＶＤ等をご提供いただき、その査定換金額が鹿児島大学に寄附される取り組みです。寄附金は、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けた整備・充実に役立てられます。詳細につきましては、担当窓口へお問い合わせいただくか、Web サイトをご覧ください。

鹿児島大学リサイクル募金 Web サイト　https://lp.kishapon.com/kagoshima-u/

遺贈によるご寄附のご案内

本学では、所有しておられる資産の一部を、将来、本学に遺贈（遺言によるご寄附）したいとお考えの方に対し、遺言信託業務を取り扱う提携銀行をご紹介しております。提携銀行では、遺言書作成のご相談から遺言内容の執行まで、専門のスタッフがサポートいたします。詳細につきましては、Web サイトをご覧ください。

本学への遺贈をご希望される場合は、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、提携銀行へ直接お問い合わせください。

遺贈によるご寄附 Web サイト https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/cat1353/izou.html

【提携銀行（五十音順）】
鹿児島銀行 営業統括部（信託チーム）／みずほ信託銀行 鹿児島支店／三井住友信託銀行 鹿児島支店

税制上の優遇措置について

本学へのご寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。また、お住まいの都道府県・市区町村が、条例で本学を寄附金税額控除の対象として指定している場合、個人住民税の税額控除が受けられます。なお、相続税申告期限内に遺贈により本学にご寄附いただいた財産については、相続税はかかりません。詳細につきましては、Web サイトをご覧ください。

お問い合わせ先

鹿児島大学総務部総務課
広報・渉外室　基金・渉外係
TEL 099-285-3101 ／ FAX 099-285-3854
E-mail　s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学東京リエゾンオフィスの閉所について

令和３年12月31日をもって東京リエゾンオフィス（リエゾンスペースを含む。）のご利用を終了させていただきました。

各学部同窓会活動報告

法文学部同窓会

１．令和３年度法文学部同窓会理事会開催

令和３年10月15日（金）法文学部２号館４階法経社会学科会議室で法文学部同窓会理事会が開催されました。令和３年度（第69回）法文学部同窓会総会については新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止とし理事会の決議を以て総会決議に代えることで承認されました。引き続き、令和２年度同窓会会務報告、収支決算、監査報告、令和３年収支予算が承認されました。なお、監事が濵田安正氏（Ｓ44年卒）から別府博氏（Ｓ44年卒）に交代になりました。

２．令和３年３月末法文学部卒業生就職状況

民間企業65％、公務員35％の比率となりました。民間の就職先は情報通信業が最も多く、以下、小売業、金融業、保険業となっています。

就職地域別では、鹿児島県内47.7％、鹿児島県を除く九州・沖縄地区が30.7％で九州・沖縄地区が全体の約８割を占めています。

学　　科	公務員	民間	就職者数	就職希望者数	就職率
法経社会学科	８３人	１０７人	１９０人	１９６人	９６.９％
人 文 学 科	２６人	７３人	９９人	１０９人	９０.８％
そ　の　他	６人	３４人	４０人	４５人	８８.９％
合　　計	１１５人	２１４人	３２９人	３５０人	９４.０％

３．第１７回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペ開催

令和３年10月16日（土）第17回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペが南国カンツリークラブで開催されました。当日は42名の参加で天候にも恵まれ、好スコアが続出しました。

優勝は昭和36年文理学部卒の木場晃さんでした。成績は以下のとおりです。

優　勝	木場　　晃（Ｓ36年、文理学部卒）	ネット　７０．０
２　位	福元　洋平（Ｈ９年、法文学部法学科卒）	ネット　７０．８
３　位	船川　壽穂（Ｓ46年、法文学部経済学科卒）	ネット　７１．６
４　位	西迫　徹彦（H11年、法文学部法学科卒）	ネット　７２．４
５　位	伊牟田　均（Ｓ45年、法文学部経済学科卒）	ネット　７３．０
ベストグロス	堀之内　勇（Ｈ２年、法文学部法学科卒）	グロス　７６

＊なお、今回より会長が今村敏治さん（Ｓ45年、法文学部経済学科卒）に交代しました。
初代牧安伸会長は平成25年の発足から８年間、お世話頂きました。
ありがとうございました。

教育学部同窓会

コロナ渦における同窓会活動

１　会則の一部改正

昨年度に続き、今年度も新型コロナ感染症拡大のため、書面による理事会を開催し、定期総会や懇親交流会、鹿児島の教育を語る会など同窓会の主要な行事の中止を承認していただいた。

同時に、総会を開催できない場合の措置として、会則第10条の第４項に下記のような条文を追加することも承認され、令和３年６月14日から施行された。

> 会則第10条（総会）
> **４　災害等により総会が開催できない場合は、理事会の議決をもって総会の議決に替え、次の総会において報告する。**

２　同窓会運営協力金の募金

教育学部同窓会の運営は、新入生の入会金（終身会費１万円）で賄っているが、近年の入学者の定数減で入会金の納入減により同窓会の運営は年々厳しくなっている。そのため、平成30年度から会員に一口1,000円（幾口でも可）の「同窓会運営協力金」の募金をお願いしている。

諸行事が中止され、同窓生同士が直接交流できる場が失われ、会員の心の中から「同窓会」が薄れてしまい協力が得られないのではないかと心配したが、昨年度は110余名の協力を得られた。募金額もさることながら同窓会に寄せる会員の厚い情に感銘し、協力者のご芳名を**同窓会会報23号（９月発行）**に掲載し、謝意を表した。

本年度も募金の案内をしたが、同窓生のご厚情に甘えることなく同窓会活動の本旨である仲間意識・連帯感・母校愛を育む場を失うことのないように心がけたい。

３　校跡碑の移設・保管

ＪＲ九州は、鹿児島中央駅西口付近の再開発ビル建設を今秋着工する。そのために建設の敷地内にある**「鹿児島県第一師範学校及び附属小学校の校跡碑」**（1964.８鶴嶺会建立）を撤去したいと教育学部に連絡があった。

教育学部では校跡碑の移設・保管を希望され、教育学部同窓会が学部内に建立した「教育学部沿革の碑」（絆の碑）の側に令和３年９月移設された。教育学部同窓会も希望した場所であり、同窓会の沿革史にもしっかり留めておきたい。

（文責　教育学部同窓会会長　東寛治）

理学部同窓会南明会

鹿児島大学での経験

理学部同窓会南明会
外川内　亜美（平成22年卒）

全国各地でご活躍の同窓生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は平成18年に鹿児島大学理学部生命化学科に入学、その後、博士前期課程、博士後期課程へと進学し、平成29年９月に修了および博士号を取得致しました。実に11年と半年という人より長い学生生活の後、現在は他県の私立大学の教員をしております。両親には多大なる迷惑をかけ、博士後期課程が３年で終わらず半年おきに留年の報告をしたあの時のことを思い返すと未だに心臓がギューっとなります。博士号を取得した時は本当に喜んでくれて、両親には一生頭が上がりません。生まれ育った鹿児島を出て数年、不意に思い出しますのは、スカッとした青空に映える雄大な桜島です。キャンパスの高い建物に登っては桜島を眺めていたことを記憶しています（ちなみに自転車に乗る前にサドルの火山灰を払う癖が抜けません）。また、ワシントンヤシが並び立つ北辰通り、秋には黄金色に染まる銀杏並木通りも美しく、在籍中から現在も様々な施設の改修がされていますが、変わらずあり続けることを願います。

さて、学生生活の醍醐味であるはずのサークルに所属していなかった私の大学生活のメインは学部３年生から博士課程修了まで所属していた研究室でした。朝から晩まで研究に明け暮れ、翌日の発表データが作り終わらず、徹夜で作業したことも幾度となくありました。これはこれで学生生活の醍醐味と言えるのではないでしょうか。研究室に所属すると自分の研究だけをしていれば良いわけではなく、学生実験のアシスタント、オープンキャンパス、高校への出前実験、高校教員への出前実験、一般の方の実験体験など様々なイベントに駆り出されます。事前準備は非常に大変でしたが、アシスタント同士の連携や参加者を楽しませる工夫、外部の会場スタッフとの調整など座学では学べない経験をさせていただきました。これは今の職場でも学生の指導に活かせていると思います。また、米国ボストンでの学会発表は鹿児島大学学生海外学会発表支援事業の第一号で行かせていただき、初めての海外で見聞きしたもの全てが新鮮で大変勉強になりました。胃が痛くなるようなことも沢山ありましたが、このかけがえのない経験の積み重ねが、今後の人生の糧となることと思います。今後も鹿児島大学生が鹿児島で培った豊富な経験と進取の精神でご活躍されることを同窓生の一人としてお祈り申し上げます。

博士論文執筆中の筆者

北辰通りにて学位記と記念撮影する筆者

医学部同窓会

若者へのメッセージ「働き者になろう」 ～医療の現場から

私は「働き者」の語感が好きである。「働き者」は「働く者」に加えて「元気よく働いている姿」を想像させる。つまり、プロフェッショナリズムを感じるのである。「働き者」の姿は美しい。「働き者」は様々な場面で他者を励ましてくれる。医療の現場では患者さん方を支えてくれる。「働き者」の仕事ぶりは細部に至るまで心が行き届いている。「働き者」は忙しい。頼まれた仕事は断らないのである。「働き者」は「忙しくて当たり前」と自覚している。「働き者」は決して器用とは限らない。手を抜かないのである。そして時々悔しさも味わう。「時間さえあればもっと人に優しくしてあげられるのに」と思うこともあれば「もっと要領良く仕事ができないものか」と悩む。「働き者」は「人の為に寄り道のできる人間」である。人の為に寄り道のできる人間であるか否かは意外とはっきりしているというのが正直な印象である。それは年齢に依らない。できる人間は小学校のクラス委員長もできる。できない人間は一生できない。これは修正できないことではないと思う。一度自分を振り返り、これまで人のために寄り道のできる人間ではなかったと思えば、できるように心掛ければ良い。医療現場においては「私は人のために寄り道はできません」ではすまされない。「働き者」の集まる「チーム医療」は美しい。患者さん方のことを思えばこそ、他職種の意見を尊重して自分に見えていない部分を補う。

若い方々へのメッセージとして「働き者になろう」と言いたい。「働き者」であることは、生き方の基本であると思う。「働き者になろう」とすることは「人を愛すること」に通じる。「働き者になろう」とすれば仕事への誇りが生まれる。もし、誇りが持てない時の理由は単純である。「とことん考えていないから」である。とことん考えれば自分の仕事が職場から地域、日本、世界へ通じていることに気付く。

（文責：医学部医学科同窓会鶴陵会副会長　橋口照人）

保健学科同窓会

2019年12月武漢市で発生した新型コロナウイルスが世界中に広がり、もうすぐ２年が経過します。この間、社会は感染の危機感に対して、緊張を強いられ、人と人との交流は大きな制限を受けました。そのような状況の中、卒業生の皆様におかれましては、毎日、命と向き合い、看護、リハビリに奮闘されていると思います。その中には、新型コロナウイルス患者の対応に従事され過酷な現場で心身を削りながら業務にあたっておられる方もいらっしゃると思います。本当に感謝申し上げます。

日本国内では、８月中旬に新規陽性者数はピークをむかえ、そこからコロナ患者は徐々に減少を見せ、11月８日時点で新規陽性者数が102人と大幅な減少となっております。この２年間で感じるのは、新型コロナウイルスが徐々に日常に溶け込んでいっている、ということです。感染者数の減少ではなく、「慣れ」により脅威が薄らいできているのを感じます。感染者数の減少とともに徐々に人の流れが活発となってきており、それに伴う第６波が懸念されるところです。

医療従事者に求められる不要不急の外出、県外への移動の制限により、家族や大切な方々に会うことが困難な方もいらっしゃるのではないでしょうか。そういう私もその一人なのですが、入院患者様もまた辛い状況の中、家族との面会に制限があり、患者様、ご家族双方とも心身、落ち着かない日々を送っておられるのではないかと思います。病棟入り口でご家族がスタッフに手荷物のみ渡し、患者様と顔を合わせず帰られる姿や患者様が病棟廊下の離れた位置からご家族の姿を見送られている姿には心が痛みます。自身も大変だと思いますが、私も含め、この職に就く限り患者様に希望をもっていただけるよう医療を提供していくことが責務と思います。

緊張感は保ちつつ、この感染減少が束の間の休息とならないよう、この会報が発刊されるころには、コロナ禍が終息を迎え、患者様、ご家族、そして卒業生の皆様が大切な人たちに会いに行け、「よかった」と笑いあえる社会になっていることを切に願います。

卒業生の皆様と皆様のご家族が心も体も健やかにお過ごしになられることを願いつつ、簡単ではありますが、寄稿文とさせていただきます。

（文責：医学部保健学科同窓会作業療法専攻部会会長　中村侑司）

歯学部同窓会

令和３年度　３月以降の歯学部同窓会　主な行事

３月	25日	卒業式・学位記授与式
４月	７日	令和３年度　鹿児島大学入学式挙行、学部代表者出席（WEB配信あり）
４月	10日	新入生保護者への歯学部説明会・懇談会（Zoomリモート開催）
６月	５日	全歯懇（愛知学院大学歯学部同窓会主幹）ハイブリッド会議にて開催
６月	６日	国歯協開催（東北大学歯学部同窓会主幹）オンライン開催
６月	10～23日	日本歯科保存学会2021年度春季学術大会（第154回）Web方式での開催
６月	16日	鹿児島大学歯学部教授との交流会・懇親会　オンライン開催
７月	10日	令和３年度　第一回評議員会開催　Zoomを利用したハイブリッド開催

令和３年度教授会との協議会の報告

令和３年６月16日（水）19時より、Zoom 形式にて教授会との協議会を開催しました。大学からは西村学部長はじめ19名の教授、同窓会からは村上会長はじめ役員と村口大学支部長が出席しました。前年度はコロナ禍にて中止しましたので２年ぶりの開催でした。

最初に西村学部長、村上会長よりのご挨拶をいただき、中田教授、笹平教授より新任のご挨拶をいただきました。

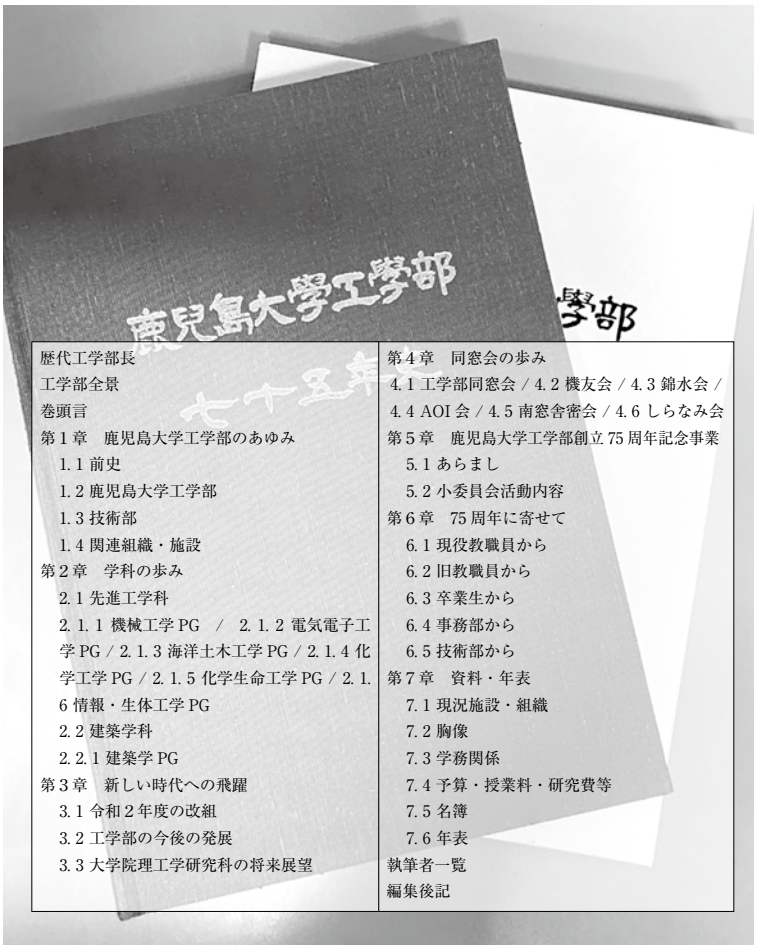
約１時間半の Zoom 形式ではありますが、やはり顔を見合わせての会議は相互の協力関係の為に有意義でありました。

新型コロナの感染が落ち着いて、協議会と同時期に行っていた懇親会が開催出来る日が来るのを楽しみにしております。

工学部同窓会

工学部創立75周年記念誌「鹿児島大学工学部七十五年史」のご紹介

鹿児島大学工学部は2020年に創立75周年を迎えた。６つの事業が企画され、それぞれに小委員会が発足して活動を続けてきた。６事業のうち記念式典と記念講演会は併せて稲盛会館にて2021年４月24日（土）に開催され、コロナ禍ながら盛会のうちに終わった。これらについては「鹿児島大学同窓会連合会報」No. 32および本No. 33「特別寄稿」をご参照いただきたい。ここでは６事業の一つ「記念誌事業」の成果である「鹿児島大学工学部七十五年史」を紹介させていただく。なお、その他「記念名板作成・広報事業」（委員長 堀江雄二 電気電子工学PG教授、副委員長 水田 敬 化学工学PG助教、横須賀洋平 建築学PG准教授、技術部・比良祥子職員）、本記念事業の目玉である「工学研究・海外派遣等助成事業」（委員長 甲斐敬美 化学工学PG教授、副委員長 審良善和 海洋土木工学PG准教授）、「庶務・会計小委員会」（委員長 田中哲郎 電気電子工学PG准教授、副委員長 増留麻紀子 建築学PG助教）については別の機会に譲る。



歴代工学部長
工学部全景
巻頭言
第１章　鹿児島大学工学部のあゆみ
1.1 前史
1.2 鹿児島大学工学部
1.3 技術部
1.4 関連組織・施設
第２章　学科の歩み
2.1 先進工学科
2.1.1 機械工学 PG ／ 2.1.2 電気電子工学 PG ／ 2.1.3 海洋土木工学 PG ／ 2.1.4 化学工学 PG ／ 2.1.5 化学生命工学 PG ／ 2.1.6 情報・生体工学 PG
2.2 建築学科
2.2.1 建築学 PG
第３章　新しい時代への飛躍
3.1 令和２年度の改組
3.2 工学部の今後の発展
3.3 大学院理工学研究科の将来展望
第４章　同窓会の歩み
4.1 工学部同窓会 ／ 4.2 機友会 ／ 4.3 錦水会 ／ 4.4 AOI 会 ／ 4.5 南窓舎密会 ／ 4.6 しらなみ会
第５章　鹿児島大学工学部創立 75 周年記念事業
5.1 あらまし
5.2 小委員会活動内容
第６章　75 周年に寄せて
6.1 現役教職員から
6.2 旧教職員から
6.3 卒業生から
6.4 事務部から
6.5 技術部から
第７章　資料・年表
7.1 現況施設・組織
7.2 胸像
7.3 学務関係
7.4 予算・授業料・研究費等
7.5 名簿
7.6 年表
執筆者一覧
編集後記

さて、「鹿児島大学工学部七十五年史」（挿絵）は委員長 西村悠樹 機械工学PG准教授、副委員長 大高武士 機械工学PG助教、幹事 重井徳貴 電気電子工学PG准教授の３先生を中心に進められ、挿絵にはめ込んだ項目から成り、307頁にのぼる大著となった。既発行の「鹿児島大学工学部五十年史」を参考に、項目、頁数、内容等が検討されたようだが、頁数が予定を大きく超えたり、「五十年史」作成当時とは異なる著作権等に関する社会状況の変化により、例えば前史からの転載や写真掲載に当たっては承諾書をお願いしたりと、上記３先生をはじめ各章とりまとめの先生方は大変なご苦労をされたようである。西村委員長は前史を編纂するために工学部のみならず鹿児島大学の過去の記念誌等を読み込まれたようで、その真摯な姿勢に唯々感服する。また、退職された先生方の名簿が不完全なことが途中で発覚し、全教職員で更に追跡調査が行われたが、その点については、同窓会幹事の一人として名簿管理の不備を申し訳なく思う次第である。

時をほぼ同じくして、工学部は大きく改革した。2020年度、７学科から２学科へ改組し、学部から大学院博士前期課程までの６年一貫教育を実施し、幅広い視野を育てる実践的教育、融合された教育・研究を実現した。地域工業の知の拠点として、次の創立100周年に向けて改革を継続し、地域や国際社会に貢献していくという気概で進んでいる。６事業の一つ、上記「工学研究・海外派遣等助成事業」もこれに大きく貢献してくれるものと期待している。

「鹿児島大学工学部七十五年史」は工学部関係諸氏の努力により、令和３年６月30日に発行された。機会があればご高覧いただければ幸いである。

（文責　吉留俊史 S60 応化卒）

農学部あらた同窓会

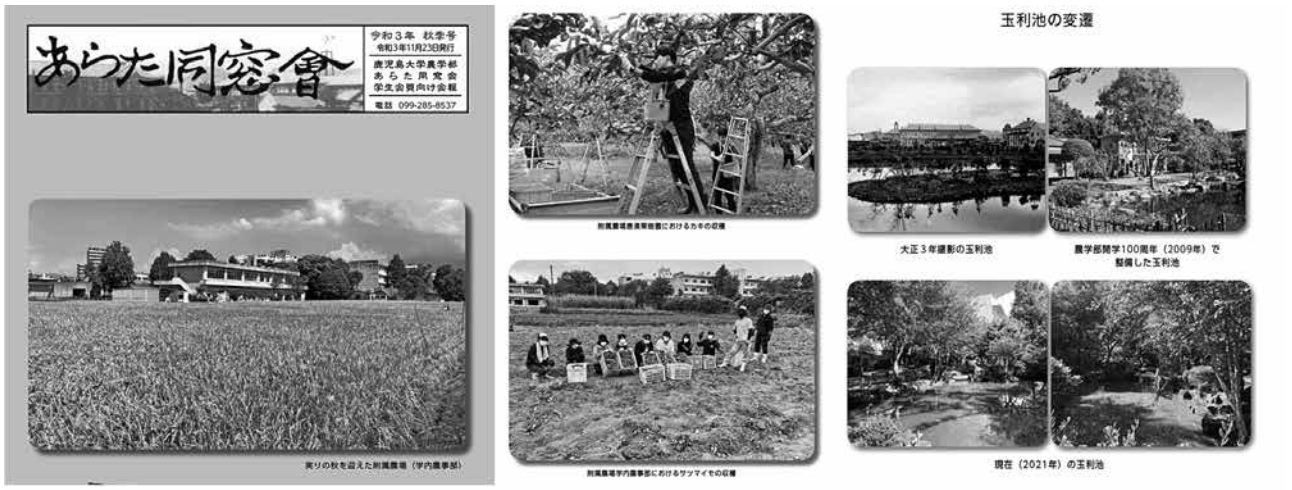
「あらた同窓会会報・令和３年秋季号」を発行しました。

鹿児島大学農学部あらた同窓会では、４～５年に１回の「**会員名簿**」の発行に加え、毎年３月の「**卒業生・修了生名簿**」および**毎年２回（春季号と秋季号）**「**あらた同窓会報**」を発行しています。会報の春季号は学生会員を含む一般会員に、秋季号は学生会員を中心にお届けしています。また、11月23日（鹿児島高等農林学校・新嘗祭の日）には「**あらた同窓会総会・懇親会**」を開催するとともに、学生会員向けには「**学生向け講演会**」の開催、３月の卒業、修了時の農学部と共催の「**卒業・修了祝賀会**」を開催しています。その他、各県支部、クラス会などへあらた同窓会役員等を派遣して鹿児島大学農学部の近況について報告する活動も行ってきました。しかし、昨年（令和２年）は「新型コロナウイルス感染症パンデミック」の影響で、「卒業・修了祝賀会」、「学生向け講演会」、「あらた同窓会総会・懇親会」のいずれも開催できませんでした。また、各県支部やクラス会も中止あるいは延期されました。

そのような中、「**卒業生・修了生名簿**」および**毎年２回（春季号と秋季号）の**「**あらた同窓会報**」は学内幹事を中心に「あらた同窓会員」のご協力で無事に発行できました。ここでは、学内幹事や農学部学生・院生の多大な協力で発行する「**あらた同窓会報令和３年秋季号（学生向け会報）**」について簡単にご紹介します。

例年の秋季号は、学部生・院生の諸活動報告が主で、「**ビバキャンパスライフ**」、「**教育実習体験記**」、「**インターンシップ体験記**」、「**留学体験記**」等で構成していますが、今年は就職活動への取り組みにコロナ禍の影響が大きかったことから、農学部副学部長（前年度就職委員長）に「**コロナ禍の中での就職活動**」についてご寄稿していただき、さらに３名の院生に「**就職活動体験記**」としてコロナ禍で苦しんだ就職活動について体験記を執筆していただきました。あらた同窓会長による巻頭言「「**新型コロナ禍」が収束した時、あなたは何に挑戦していますか**」、農学部長による「「**ダブル・ディグリープログラム」いよいよ開始です！**」のご寄稿に加え、先述の「**コロナ禍の中での就職活動**」および例年同様の学部生・院生による「**ビバ･キャンパスライフ**」９編、「**教育実習奮闘記**」３編、「**インターンシップ体験記**」３編、「**就職活動体験記**」３編、「**留学体験記**」１編を掲載し、表紙（下写真）を加えて20ページになりました。この秋季号は農学部の全学生・院生、教員の他、11月23日開催の「あらた同窓会令和３年度総会」および各支部の総会等で配布します。

（秋季号詳細はあらた同窓会HP　http://aratadousokai.org/にアップしますのでご覧ください）。



鹿児島大学農学部あらた同窓会報令和3年秋季号表紙（左から表表紙、同裏、裏表紙裏）

水産学部同窓会魚水会

水産学部の定員は１学年140名で鹿児島大学の中では３番目に少ない学生数です。また、国立大学の水産学部は全国で３つしか無く、85%以上の学生は北海道から沖縄まで鹿児島県外からの学生です。そしてその卒業生の90%近くは県外に就職して行きます。魚水会支部は東北から沖縄まで19支部で活動しています。また、昔は水産学部と言えば男子学生ばかりでしたが、最近の傾向として女子学生が増加の一途をたどり、40%の学生は女子学生です。そのような訳で魚水会も女子会員や若手会員の積極的な参加を呼び掛けています。

令和２年（2020）、令和３年（2021）はコロナ禍の為に魚水会活動は大きく制限されてしまいました。

１．魚水会全国総会福岡大会の中止と総会を理事会に！

全国に会員が散らばっている関係で、全国総会を鹿児島→福岡→鹿児島→東京→鹿児島→大阪と４都市をローテーションで２年に一度200名以上の参加者を得て開催しています。

今回は令和３年（2021）６月の予定を11月に変更して福岡で開催する予定でしたが、なかなかコロナ禍がおさまりそうになく急遽中止にし、全国の理事を集めて理事会を総会に変更することにして令和３年（2021）11月27日（土）に鹿児島にて開催しました。もう一度、来年、令和５年（2023）に福岡で開催することにしました。

令和７年（2025）は80周年記念大会を鹿児島で盛大に開催したいと思います。

２．同窓会報誌『魚水』発行

毎年年２回春夏号（お盆前）、新年号を発行しています。編集委員には記事や編集が偏らないように学内、学外に限らず80歳を越えるベテラン会員から女性編集委員３名、学生委員３名を含めて23名にボランティアで頑張ってもらっています。そして、住所が判っている全国の全会員や教職員はもちろん全学生や、鹿児島大学各学部のみならず交流の有る全国の大学にも配布しています。記事は全国の会員や学生などから募集しています。表紙も時々のタイムリーな写真を採用するようにしています。

令和４年（2022）新年号の第１回編集会議も三密を避けて水産学部大会議室にて令和３年９月29日（水）に開催し、何度も会議、校正を重ねて新年号が発行されました。

３．同窓会名簿作成

名簿専門業者にお願いし、新たに魚水会名簿が発行になりました。学生には無償贈呈しています。先輩方がどのような所に就職しておられるか分かると思います。就職活動で興味がある人は学生係か魚水会事務局まで問い合わせて貰えます。２年後の令和６年（2024）には次の名簿作成を計画しています。

現在、個人情報保護法の関係で名簿作成もなかなか難しくなってきましたが、やはり名簿作成が同窓会活動の原点と思い、続けていきたいと思います。

４．『水産学部学術振興基金』の利用

水産学部50周年記念事業として魚水会が創設した『水産学部学術振興基金』も毎年沢山の学生が海外渡航や国内出張の経費の補助などに利用しています。ここ２年間はコロナ禍の為に学生の活動が制限されてしまい、利用が著しく少なくなっています。

５．もどっきゃんせDAYの中止

毎年、水産学部就職セミナーと同じ日に、もどっきゃんせDAY（ホームカミングデー）を開催していますが、昨年は中止しました。現在、全国の第一線で活躍されている水産学部OBを講師に招き講話をいただいています。3.11東北大震災で壊滅的に被災され劇的に復活した釜石市の『三陸おのや』小野食品の小野昭夫社長にお願いしたり、次はキユーピー㈱の長南収社長にお願いしていましたが、コロナ禍の為にのびのびになってしまいました。講演者は自分の経費で来ていただき、講演料も無料でお願いしています。

併せて講演会終了後、水産学部生協食堂で学生は無料にて懇親会を開催しています。きっと今年は開催出来ると思います。

６．新卒業生への激励

コロナ禍の為に入学式、卒業式、魚水会入会式などことごとく中止及び縮小して開催されて来ましたが、成績優秀者やスポーツや社会貢献などで活躍している方々に魚水会賞として金一封を添えて表彰し、その栄誉を称えています。これらは個別に魚水会事務局に招いて表彰できました。

また、卒業生全員に卒業記念品を贈呈しています。

今年度はコロナ禍も落ち着き、以前の平穏な日々を取り戻して貰いたいと思います。

共同獣医学部紫友同窓会

令和３年のここまでの活動等についてご報告します。

１．事務局会議

５月29日に学部内で会長を交えて事務局会議を開催し、評議員会で審議する議題及び報告事項について検討しました。今回も新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、評議員会は書面会議とすることで合意されました。

２．評議員会

６月21日～30日の期間で書面会議として開催され、議題として、①役員改選、②令和２年度事業報告及び決算、③令和３年度事業計画及び予算（案）について、事前に配布した資料に基づき審議を願い、その可否を郵送で回答してもらった結果、全会一致で承認されました。令和３年度事業計画の中には名簿を12月に発刊すること、学生支援の経費を予算化したことも含まれています。報告事項として、①学部の現況、②同窓会連合会の活動も書面で報告されました。学部の現況については、新型コロナウイルス感染症対策の取り組みや教員の動向が紹介されました。また、同窓会連合会の活動報告が議事録に基づいて説明されました。

３．学生支援

学生の学外実習に伴う旅費等の経費の一部を同窓会が支援するという事業を昨年度から始めましたが、今年度から正式に予算化して継続されました。学生が少しでも経費を心配せずに実習に集中できる環境づくりに役立っているものと期待しているところです。

４．同窓会名簿の発刊

同窓会事業として３年ごとに名簿を発刊していますが、コロナ感染症の影響もあって１年遅れで12月に発刊されました。名簿の作成及び発刊は前回より業者委託となり、事務局の負担が軽減されました。名簿は会員の動向を知る有効な手段でもありますが、個人情報満載でその取扱いには慎重を期す事が求められることから、シリアルナンバーを付す事で対策をとっています。

５．会報７号の発刊

同窓会の会報である「紫友」の第７号を１月に発刊しました。この会報は会員相互の情報共有のツールとして活用してもらうことを目的に、年１回この時期に発刊しています。

総合動物実験施設．全国の大学で３番目に国際実験動物管理評価認定協会（AAALAC インターナショナル）の認証を取得

▶特別寄稿◀

鹿児島大学工学部創立75周年記念講演会

鹿児島大学工学部は2020年に創立75周年を迎え、記念式典と記念講演会が稲盛会館にて、2021年４月24日（土）に開催された。本号では前号（記念式典）に続いて記念講演会の様子をお伝えする。

記念講演会は記念式典に続いて13：25から、記念講演会小委員会委員長の金子芳郎氏（化学生命工学PG准教授）の司会進行兼講演座長により、開催された。外部有識者による基調講演２件、地域へ貢献している学内若手教員による講演２件が行われた。まず記念事業委員会委員長木下英二氏（工学部長、機械工学PG教授）から次のような挨拶があった。「創立50周年からこの75周年まで時代は様々に変革し、種々の課題に直面している。地域・国際社会へ貢献する工学部は今後もますます重要となり、その更なる発展の始まりとしてふさわしい講師を本講演にお招きした。」

基調講演の１件目として、科学技術振興機構理事長濱口道成氏（名古屋大学元総長、文科省科学技術学術審議会元会長、など。国際的な受賞多数）により『日本の科学技術の現状について』との演題で次のような講演が行われた。「JSTは科学技術イノベーションの基礎を作ることを主な業務とし、今後は10兆円規模の資金をも用意すべく活動中である。」このようなJST説明の後、日本の科学技術の現状に関して次のような話があった。「コロナの影響は大きく、科学技術にも新しい潮流をもたらしている。ワクチン開発などコロナ研究でも大学の役割は大きくなるなか、日本は研究者数や研究費では世界にそん色ないものの業績は第16位である。これには構造的なところに原因がある。日本の論文数は横ばいで、被引用件数の順位は大きく低下している。研究領域に関して日本は分野開拓が悪い、すなわち伝統に固執して新しい領域を開拓できず、国際協調も少ない。これに対して米国は幅広く展開し、中国は戦略的に米国の弱いところを開拓している。他国は社会課題の設定・解決型の研究を共同的に行い、米国などは企業も巻き込みながら、そこからイノベーションへ繋げる体制にシフトしつつある。日本では企業の論文数が６割に減少、ある大学では工学系の論文投稿先が理学系と同じ傾向にあるなど、日本の工学の活力が低下していることが危惧される。日本は、経済規模の大きい半導体・コンピュータは衰退し、自動車・エンジン・鉄・医薬品のみが残り、逆に小規模の材料科学が生まれ、世界の下請け国になっている。日本企業は自社ですべてを済まそうとする。」これらの現状解析から教訓として次のような話が展開された。「１．将来を予測する。トヨタのハイブリッドカー開発が良い例。今後は現在の大変革の時代を超えなければ世界で戦えない。２．戦略を絞り込み、投資もしやすくする。過去に縛られずにイノベーションに向かう。３．産学連携を活発にする。日本企業は日本の大学にも目を向けてほしい。４．イノベーション・エコシステムを構築する。大学の成果の受け皿となる企業を育成し、研究者と企業をつなぐ仕組みを作る。」このような教訓からイノベーション創出のための方針とJSTの姿勢や取り組みが次のように紹介された。「１．天才型：天才を見出し支援する。若手や女性など多様な人材を育成するべき（教訓５）。ノーベル賞受賞者は若いうちから活躍し、また女性が参入した特許は競争に強い（教訓６）。JSTでは『創発的研究支援事業』を展開している。２．拠点型：フラウンホーファー研究機構（ドイツ）をモデルとして、JSTでは『COI（センターオブイノベーション）』、『共創の場形成支援プログラム（COI―NEXT）』を展開している。３．課題解決型：JSTでは『ムーンショット』を展開している。その他、地域・人に寄り添う科学技術という視点から『災害復興プログラム』を展開している。最後に、Scienceとは“for all people, for well-being, for the future”である。」詳細な現状分析と示唆に富む教訓、それに基づく今後の姿勢と、身の引き締まる講演であった。質疑応答では、「地方大学が産学連携するためには？」に対して「大学内にコンサルタントが必要」、「複数企業が入ったコンソーシアムを活発にするためには？」に対して「JSTでも共同で一つの組織

濱口道成 氏

を作るようお願いしているプロジェクトもある」、「若手の育成法は？」に対して「フランホッファー研究機構では大学院生に給料を支給、JSTも博士課程6000名分を準備中、など」が語られた。

柿元邦彦 氏

基調講演の２件目として、ニスモアンバサダ 柿元邦彦氏（鹿大工機械工学第二学科1968年卒、日産レーシングチーム元総監督、ニスモ元スーパーバイザー、東海大学工学部元教授、など、執筆多数）により「天知人　運・不運に翻弄されて」との演題で次のような講演が行われた。「日産に入社して以来、車の競争という世界に身を置き、日本で最高峰のカーレースであるスーパーGTに日産からGTRで参戦し、そこで技術者およびチーム統括として働いてきた。レース走行中の衝撃の吸収、火災への対応法など、ドライバー保護の技術を進め、安全技術を進歩させてきた。車体の素材を研究し、カーボンコンポジットやチタン合金などで軽量化を実現してきた。レースでは燃料/時間が決められているので、エンジン（2000CC、700馬力）を効率化する必要があり、希薄燃焼のためにディーゼルエンジンの副燃焼もどきも使って、熱効率50%（一般車は30%）を達成してきた。タイヤの素材や形態を研究し（晴れ用は溝なし、雨用は溝あり）、また空力開発、風洞試験、シミュレーションなどを用いた流体力学的研究から、空気を利用して車体を押し付けて接地力を大きくする手法を開発してきた。タイヤの粘着力は温度でも変わるので（表面最適温度は80℃）、気象予報会社と提携して現場にてリアルタイムで情報を得つつ、経験なども総動員して気象を予測し、空気圧などを調整した。ここまで技術・調整・準備を尽くしても、予測が外れてタイヤ調整に失敗したり、跳ね飛んだタイヤ粕がエンジンを止めたり、ゴール直前でガス欠になったり、といった不運に見舞われた。逆に、最後尾からのスタートで奇跡的（計算では３%）に優勝したり、と運に恵まれることもあった。」このような体験から、運・不運もある勝負の世界に氏がどのように臨んできたかが次のように語られた。「①孟子の戦勝に対する『天の時、地の利、人の和』を拠り所に、『天（=運）』として人事を尽くして天命を待つのではなく、ケーススタディを多くやって十分に予測すれば、天命は取れると信じる。『地（→知）』として専門・分業化を尽くし、かつ知識や経験を高める。『人』として多様な人たちを同じ方向に向かわせる。②政治など様々な要素が関わるが、結果が全てという覚悟で振る舞うとともに、プロセスも大切にする（ドライバーへの配慮など）。③楽観的である。このような姿勢が勝率50%という少しだけ幸運寄りの結果をもたらしたと考える。」講演の最後に努力は必ず報われることを力説して、学生へエールを送って講演が終了した。カーレースの貴重な技術的な話題を含め、同氏の仕事・人生に対する揺るぎない姿勢が骨子となって展開された講演であった。質疑応答では、「レーシングカー技術の一般車への還元は？」に対して「現在は軽量化技術くらいであまり多くない、昔はディスクブレーキやターボエンジンが還元された」、「今後のモータースポーツは？」に対して「モータースポーツにとって音・匂いは魅力的であり、水素エンジン化が一つの方向性だろう」、「組織トップの心構えについて」に対しては「チームをまとめるためには適材適所を」、などが語られた。

片野田 洋 氏

座長を記念講演会小委員会副委員長の岡村純也氏（情報生体工PG准教授）に交代して16：00から学内教員による講演が行われた。１件目として、片野田洋氏（機械工学PG教授、専門：超音速流体力学、ロケット推進）から「鹿児島ハイブリッドロケット研究会の取り組み」との演題で次のような講演が行われた。「プロジェクトの発端は、①超小型人工衛星プロジェクト（KSAT、2015年に中断）に代わるプロジェクトを立ち上げたかった、②専門が近い、③ハイブリッドロケットの研究が盛んになった、④地域に貢献できる。ハイブリッド型（燃料が固体高分子化合物、酸化剤が液体）は推進力に難があるが安全性に優れ

る。目標は、燃料にアクリルとパラフィンワックス、酸化剤に液体酸素を用いて、超小型人工衛星を打ち上げること。」ここでエンジン燃焼の様子がムービーで上映された。「初号機は２年前にエンジンの点火がうまくいかずに飛行高度20mと失敗したが、２号機は2020年12月に打ち上げ、到達高度500m以上と大成功であった。」ここで２号機打ち上げの様子がKKBの動画配信ムービーで上映され、ランチャーから勢いよく飛び出す姿が印象的であった。「これまでに取材報道を多数いただいた。２号機で打ち上げた模擬人工衛星等を研究会メンバーの（株）宙（そら）の駅がネット販売して開発資金の一部としており、奨学寄附金も約643万円を頂いた。県内企業で加工製作をおよそ行い、肝付町やJAXA等の協力も得て、地域へ貢献する産学官プロジェクトとなってきている。将来的に１kg以下の超小型人工衛星を軌道投入すべく、３号機を開発中である。KSATに続くプロジェクトとしたい。」質疑応答として、「教育的配慮は？」に対して「学生のアイデアを大切にしている。工程管理も任せている。」、「固体ロケットの推力のコントロールはどのようにしている？」に対して「燃料の内部デザインによって制御されるのみ。」などが語られた。

学内教員による講演の２件目として鷹野 敦氏（建築学PG准教授、フィンランドのアールト大学修了、受賞多数）から「産学協同で取り組む『こどものけんちくがっこう』」との演題で、まず冒頭、活動の様子がムービー上映された後、次のような講演が行われた。「演題になっている『こどものけんちくがっこう』とは学生（20～30名）と社会人（７名）が先生となって産学協同で行う、小３～中３の子供たち（50名、国外に30名）が建築を学ぶ習い事のようなもの。現在４つから構成されている。①定期授業（月２回（土）２時間）として、手で学ぶ（木工細工、建築模型作成、など）、頭で学ぶ（森林や製材所に行って材木→建物→町という変遷を学ぶ、など）。②夏季課外授業として、実際に建物を作る、しかも注文をもらって子供達がゼロから作る。③体験授業として、イベントにブース出展する。④オンライン授業として、遠隔で指導して工作させる、世界の家を見てもらう、など。活動を起こした動機は北欧に８年間住んだ経験から、ヨーロッパは街並みがきれいなのに日本は必ずしもそうでないことを残念に思ったこと。その原因は市民の意識の違いであり、日本でも街並みをきれいにするには市民が建築に関心を持つことが必要と考えた。未来の人材を育てるプラットフォームになってきたと感じる。大学生にも自からの学びになっていると思う。後継者や同調してくれる人を期待している。」質疑応答として、「自主性が育つか？」に対して「友人が増える。高校になった子がTAを申し出た。」、「教え方として気を付けていることは？」に対して「むしろ積極的には教えないようにしている。失敗もOKとの立ち位置でいる。」

鷹野 敦 氏

講演会の締めくくりとして17：00から、実行委員会委員長渡邊睦氏から次のような閉会の挨拶があった。「鹿大の課題は何？に対して講演にヒントがあったのではないか。Zoom参加者約50名、youtube参加者約100名、会場来場者約50名、寄付金2144.5万円（企業31件、個人518件、2021年４月現在）。創立50周年から建物・人員・工学部の構造など大きく変化したが、変わらないものは我々の鹿児島大学工学部への気持ちであり、次の100周年へ向かって発展させていきたい。」

最後に記念写真撮影により全日程を終了した。

▶特別寄稿◀

南西諸島での新種ゴキブリの発見

農学部　准教授　坂巻祥孝

学生時代は蛾の分類学の研究をしてきた。新種を見つけたり、学名を整理したりといった基礎的な研究である。しかし、1999年に鹿児島大学農学部に助手として赴任することになって、鹿児島で農業に役に立つ害虫や天敵の研究をする心づもりだった。いざ赴任してみると、すぐに当時の研究室の教授から「多島研（現在の国際島嶼教育研究センター）でミクロネシアに調査団を出すから参加してきなさい。」といわれて面食らった。調査団は水産学部の練習船「敬天丸」に一か月缶詰めで往復するのである。いざ、参加してみると法文学部、教育学部、工学部、水産学部、農学部、医学部、多島研の研究者がそれぞれの研究について毎日議論できたのである。この充実した船旅はとても感動的であった。そして、2005年５月に「宇治群島総合調査」で再びこのような機会に恵まれ、私は喜んで参加した。宇治島は無人島で農業は行われていないので、この調査では島に生息する昆虫種をできるだけたくさん記録してリストアップすることを目的とした。標高96m の灯台までの道を歩きながら、途中わき道にそれて、目につく虫や小動物を採集した。こうして、採集した中に一風変わった褐色の小さなゴキブリ幼虫数個体が含まれていた。触角が短く、途中数節が真っ白で、また、体の側面からは放射状に剛毛が伸びていた（図１左）。とても奇妙な幼虫の特徴から文献を調べたところ、ムカシゴキブリ科のルリゴキブリ属の幼虫と推測された。ルリゴキブリ属は、その名の通り成虫は瑠璃色の金属光沢をもつ美麗なゴキブリで、それまでに国内では八重山諸島のルリゴキブリ１種しか記録がなく、900kmも離れた宇治群島に同じ種がいるかもしれないと思うと、驚きを抑えきれなった。夏に宇治島に上陸して、成虫が採れれば大変美麗なはずである。そう考え、同年８月に、同群島に向かう釣船に乗船し、もう一度宇治島を訪れた。そして、オスの成虫１頭を見つけることに成功した。間違えなく瑠璃色の光沢をもったルリゴキブリの仲間であったが、八重山諸島のルリゴキブリが瑠璃色一色なのにくらべ、宇治島のルリゴキブリは背中にオレンジ色の大きな斑点が３つあって、さらに美しく思われた（図１右）。そして、形態をつぶさに比較して八重山産の既知種ルリゴキブリとは別種であると判断された。

しかし、文献を調査するとこの宇治島産のルリゴキブリと同じような斑紋を持つ種が台湾と中国本土の福建省周辺にいるされており、これらとの比較をしないと種名（学名）が確定できない。中国本土の福建省産の近似種については中国側の標本持ち出し規制が厳しく、比較検討ができないまま13年が過ぎた。この間に知り合いから借り受けた標本から悪石島や奄美大島にも同じ特徴の種がおり、さらに与那国島にはオレンジ色の斑紋がより薄い近縁な別種がいることが分かった。そして、2017年に中国の研究者が中国国内のルリゴキブリ属を取り纏める論文を発表した。そのおかげで、中国福建省の別種の情報が明らかとなり、宇治島で得られたルリゴキブリが新種になると判断できた。ちょうどこのころに、法政大学の島野智之教授、磐田市竜洋昆虫観察自然公園の柳澤静磨さんから「坂巻先生が報告しているルリゴキブリに強い興味があり、飼育もしているし、多数の標本ももっているので、共同研究をしたい」と問い合わせがあり、この３人で新種記載の作業を進めることとなった。新種記載の作法や英語論文の書き方などを柳澤さんに指導しながらの共同作業となったが、分業がうまくできて、多領域の DNA 配列の決定もできて、2020年11月に徳之島、奄美大島、悪石島、宇治島に分布するアカボシルリゴキブリと与那国島固有のウスオビルリゴキブリの新種記載が発表できた。宇治群島での初発見から15年間経ってしまった。

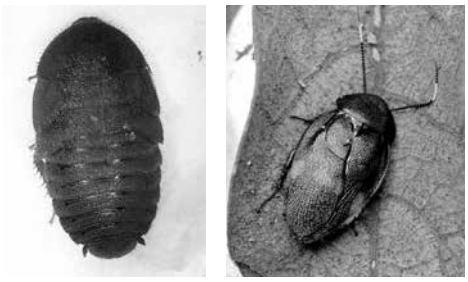


図１．宇治島のアカボシルリゴキブリ
（左：幼虫、右：成虫）

今回新種記載した２種のルリゴキブリは、甲虫のような瑠璃色の金属光沢をもち、オレンジ色の斑紋をもつため、外見が美麗で発表当初から「ゴキブリとは思えない美しさ」と評判となり、多数のメディアで報道していただけた。

私は日常的には研究室の学生たちと、農業害虫とその天敵たちの関係および生態を研究して、農薬だけに頼らない永続性のある害虫防除法の研究をしている。しかし、このように農業と直接関係ないゴキブリの新種記載ができたのは、鹿児島大学が学部や分野の垣根が低く、他学部の分類学者や学内の南西諸島の生物相の研究者たちと活発に交流できたからだと思う。本研究は国際島嶼研究センターのプロジェクトに始まり、その後、多数の学内の研究者に応援してもらって完結できた。研究、交流の自由が高度に保証され、学生・院生も含んだ研究者同士が垣根なく、活発に議論できることは鹿児島大学の強みであり、この強みを維持することが本学の明るい未来に通ずるものと信じている。

卒業生によるキャリア支援セミナー
「きばいやんせ、鹿大生2021 ！」

日　　時　2021年12月4日（土）14：00～16：30
オンライン（Zoom）開催

【ゲストスピーカーの皆さん】
木村　健介 氏　2009年　法文学部卒業／三井物産㈱ ファッション・繊維事業部
中尾　文哉 氏　2009年　法文学部卒業／豊田通商㈱ モジュール事業部
永友　絢子 氏　2016年　法文学部卒業／㈱サイバーエージェント【㈱タップル】
大塚　　圭 氏　2020年　法文学部卒業／㈱リクルート ディビジョン統括本部 ビューティーディビジョン
牛川　太郎 氏　2020年　農学部卒業　／楽天㈱楽天モバイル基地局 推進管理部 九州エリア課
國料　大夢 氏　2021年　法文学部卒業／㈱キーエンス メトロロジ事業部

令和３年12月４日（土）、卒業生によるキャリア支援セミナー「きばいやんせ、鹿大生2021！」（主催：鹿児島大学キャリア形成支援センター、協力：鹿児島大学同窓会連合会）が開催されました。７回目となる今回は、ゲスト（先輩）スピーカーである卒業生６人も、参加した在学生76人も、全員がZoomによるオンラインで参加しました。

オープニングでは枚田キャリア形成支援センター長による開会の挨拶に続き、佐野学長からビデオメッセージによる挨拶があり、引き続き枚田センター長からゲスト６人の紹介がありました。

第１部（全体セッション）では木村健介氏の司会進行により、各ゲストから自己紹介を兼ねて学生時代の活動や現在の仕事内容などについての紹介がありました。第２部は、ゲストごとの６つのブレイクアウトルームに分かれて座談会形式のグループセッションとして20分ごとの３交替で、参加学生とゲストの質疑応答形式で「学生時代に取り組んだこと」、「現在の就職先を選んだ理由」、「業務内容や仕事のやりがい」、「社会人になってからの失敗談を含む経験」、「プライベートの過ごし方（ストレス解消法）」、「後輩学生へのアドバイス」など多岐に渡る内容で盛り上がりました。第３部の全体でのセッションでは、木村氏の進行により、各ゲストから感想やコメント、後輩へのエールなどが述べられました。

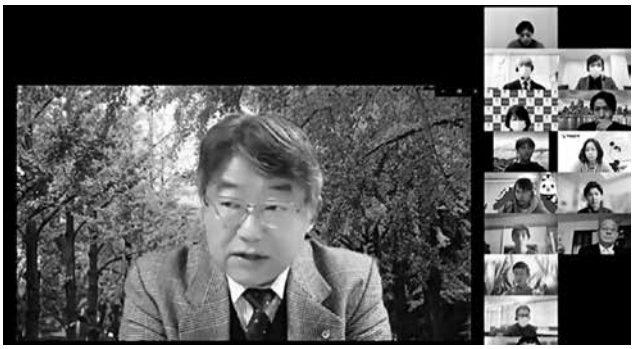
最後に、ゲスト６人に対して枚田センター長から「鹿児島大学名誉キャリアサポーター」の委嘱式があり、同窓会連合会の冨永茂人会長から、鹿児島大学の卒業生である６人のゲストスピーカーに感謝の言葉が述べられ、参加した学生に対しては、このキャリア支援セミナーで学んだことなどを学生生活で実践し、卒業して社会に出た後には母校で学んだ経験を生かして活躍していただきたいこと、そして同窓生として鹿児島大学を盛り上げていきましょうとの挨拶があり、セミナーを締めくくりました。

在学生と年齢が近いゲストスピーカーの皆様のアドバイスで、セミナーに参加していた在学生の皆さんの積極的な聴講姿勢と活発な質疑応答の様子が感じられました。同窓会連合会としても次年度以降もこのセミナーに協力していきたいと思いました。

本日のスケジュール

開始	終了	内容	登場者
14：00	14：10	オープニング～開会挨拶	佐野学長 枚田キャリア形成支援センター長
14：10	14：40	**第１部　全体セッション** ゲストによる自己紹介	司会（木村健介 様） ゲストスピーカー　5名
14：40	14：50	ブレイクアウトルームへ移動･休憩	
14：50	16：05	**第２部　座談会** ブレイクアウトルームに分かれて グループセッション	木村様（三井物産）、中尾様（豊田通商）、永友様（サイバーエージェント）、大塚様（リクルート）、牛川様（楽天） 國料様（キーエンス）
16：05	16：10	メインルームへ移動・休憩	
16：10	16：20	**第３部　全体セッション** 後輩の皆さんへのメッセージ	司会（木村健介 様） ゲストスピーカー　5名
16：20	16：30	名誉キャリアサポーター委嘱 閉会あいさつ	キャリア形成支援センター長 冨永同窓会連合会会長

「きばいやんせ、鹿大生 2021 ！」のオンライン（Zoom）画面（表紙とスケジュール）



「きばいやんせ、鹿大生 2021 ！」のオンライン（Zoom）画面（左＝佐野学長の挨拶、右＝参加者）

【参加学生の感想】（抜粋）
○すべてにおいて早めに行動することが大事（工１年）　○どの方も、大学生活を充実させることが重要であるとおっしゃっていました。（農１年）　○自分のやりたいことに一生懸命取り組んだり、挑戦を続ける姿勢に感動いたしました。（法文１年）　○参加してよかったと思いました！３人の方からしかお話を聞けなかったですが、この機会を糧にいろんなことにチャレンジしようと思いました。（法文２年）○視野を広く持つことが大事だなと学びました。（法文３年）　○学生のうちにやりたいことはやっておこうと思った。（水産１年）　○もっと気軽にアクティブに大学生活を過ごしてもいいんだ！（農２年）　○失敗をすることで自分に合わないことや改善すべき点を見つけられるという話を聞き、いろいろなことに挑戦してみようと思った。（法文１年）　○今までは自分の学部の内容にあった職業に就いた方が強みになると思っていましたが、お話を聞いて自分のやりたいことをいろいろな角度から見てみようと思いました。（農２年）　○学生のうちに様々なことに挑戦して、引出を多くつくっておこうと思いました。今すでに３年生で遅い気もしますが、まだまだできることは沢山あると思うので、臆せず挑戦していきます。（法文３年）　○将来の就職に関係あるかどうかにかかわらず、やりたいことを行うというのがとても印象に残った。（医１年）　○専攻の分野にとらわれず、幅広い考え方をお持ちの方が多く、自分の視野が広がりました。（工２年）　○行動に移し、経験をすることが大事であるということを学ぶことができた。（医１年）　○行動することとそのための勇気、行動の結果を振り返ることが大事なんだなと思いました。（農１年）　○自由に過ごすことの大切さを実感した。自分の専門分野にとらわれず、いろいろ挑戦しようと思った。（法文１年）　○気になることにはとりあえず取り組んでみるのが大事だと思った。（農１年）　○学生のうちにしかできないことがたくさんあるということを知りました。やりたいことをやりたいときにするということが講師の方々の意見で共通していたと感じました。（医１年）　○資格より経験が大事と分かった。（工１年）　○就活に対する不安をへらすことができました！これからも頑張ります！（法文３年）

（文責　同窓会連合会事務局）

第４１回鹿児島大学ＯＢ・ＯＧゴルフ大会の開催

恒例の鹿児島大学 OB・OG ゴルフ大会は、昨年（令和３年・2021）は４月の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染が収束せず、一時は９月に延期し、結局、残念ながら２年続けての中止に追い込まれました。

今年は、令和３年12月16日に全学部の実行委員が集まり鹿児島大学 OB・OG ゴルフ大会実行委員会を開催し、第41回大会を感染対策に十分して下記のように開催することにしました。

（ただし、感染状況によっては成績発表・表彰式は工夫をして実施）

この大会は、第１回から鹿児島大学長が会長になり行われる鹿児島大学の大きなイベントの一つです。全国からたくさんの同窓生のご参加をお待ちしています。

記

１　**期　日：令和４年(2022)４月17日(日)**
２　場　所：蒲生カントリークラブ（鹿児島県姶良市）（0995－52－0381）
　　（セルフプレー又はキャディ付 OK。各学部実行委員までお問合せください。）
３　予定参加人数：300名
４　その他：令和４年１月17 日から４回、南日本新聞に掲載。

学部別実行委員

水 産 学 部：TEL 099－286－4080　FAX 099－286－4080（辻口）
農　学　部：TEL 099－282－2266　FAX 099－282－2266（平）
共 同 獣 医：TEL 099－254－7947　FAX 099－254－7947（鶴田）
医　学　部：TEL 099－812－1133　FAX 099－812－1677（上野）
法文・理学部：TEL 099－254－7111　FAX 099－254－7101（青木）
教 育 学 部：TEL 099－296－9602　FAX 099－296－9603（児玉）
歯　学　部：TEL 099－286－6480　FAX 099－286－4484（濱崎）
工　学　部：TEL 099－285－3408　FAX 099－285－3408（渕田）
本 部 職 員：TEL 099－286－4111　FAX 099－286－4484（西元）

◎同窓会連合会（鹿大総務部総務課基金・渉外係）：
TEL 099－285－3101、3102　　FAX 099－285－3854（畠、岩﨑）
Email：kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

同窓会連合会のホームページもご覧ください。 https://www.kagoshima-u.ac.jp/rengoukai/

第１回大会（昭和57年（1982））から毎回、母校の鹿児島大学へ参加費から賛助金を贈り続けています。

蒲生カントリークラブ　桜島コース１番ホール

（文責 大会実行委員長・岩元善巳）

鹿児島大学同窓会連合会事務局並びに各学部同窓会の連絡先

鹿児島大学同窓会連合会事務局
〒890-8580
鹿児島市郡元１－２１－２４
鹿児島大学総務部総務課広報・渉外室基金・渉外係
TEL 099-285-3101　FAX 099-285-3854
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学歯学部同窓会
〒890-8544
鹿児島市桜ヶ丘８丁目３５－１
鹿児島大学歯学部内
鹿児島大学歯学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-264-1600
e-mail kashidousou@po2.synapes.ne.jp

鹿児島大学法文学部同窓会
〒890-0065
鹿児島市郡元１－２１－３０
鹿児島大学法文学部同窓会事務局
TEL 099-250-3211　FAX 099-285-3573
e-mail dousoukai@leh.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学工学部同窓会
〒890-0065
鹿児島市郡元１－２１－４０
鹿児島大学工学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3494
e-mail kadai.eng.dousoukai@gmail.com

鹿児島大学教育学部同窓会
〒890-0065
鹿児島市郡元１－２０－６
鹿児島大学教育学部事務局内
TEL・FAX 099-285-7718
e-mail dousou@edu.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学農学部あらた同窓会
〒890-0065
鹿児島市郡元１－２１－２４
鹿児島大学農学部あらた同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-8537
e-mail aratakai@mc2.seikyou.ne.jp

鹿児島大学理学部同窓会南明会
〒890-0065
鹿児島市郡元１－２１－３５
鹿児島大学理学部同窓会事務局
TEL 099-285-8925
e-mail dosokai@sci.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学水産学部同窓会魚水会
〒890-0056
鹿児島市下荒田４－５０－２０
鹿児島大学水産学部同窓会魚水会事務局
TEL・FAX 099-286-4080
e-mail gyosui@fish.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学医学部同窓会
〒890-0075
鹿児島市桜ヶ丘８－３５－１
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局
TEL 099-275-6881　FAX 099-265-9784
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会
〒890-0065
鹿児島市郡元１－２１－２４
鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3538/8711（FAX 兼用）
e-mail k2088185@kadai.jp

鹿児島大学
同窓会連合会

〒890-8580　鹿児島市郡元１－２１－２４
鹿児島大学総務部総務課広報・渉外室基金・渉外係
TEL 099-285-3101　FAX 099-285-3854
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

印刷　株式会社鹿児島新生社印刷
〒891-0132　鹿児島市七ツ島１-３-21
TEL 099-261-0111　FAX 099-261-3100
e-mail kagoshima@shinsei-p.co.jp